

第54回症例検討会

case75

2026年3月9日

高血圧症疑いを観察した一例

～鍼灸院での患者安全

田無北口鍼灸院・白石健二郎

今回の発表でお伝えしたい論点

- レッドフラグやグレーゾーン整理、紹介構造化。
(3-Layer Safety Gate)
- どうよくするか？も大事だが「どう支えるか？」
- バイタルチェックサポートやお薬手帳チェックは
鍼灸師でも有効なこともある
→再現性がありだれでもできる話中心に。

50代男性 主訴:左右腕のだるさ、めまい（ふわふわ）、腰痛症（下肢症状なし・左右）

医師診断名：Covid19後遺症、腰痛症（同意書より）

家族歴：

糖尿病（母）：股関節（左右不明）に人工金属を入れてから*1
（X-13年ころ）胃がん（父 X-5年ころご逝去）

既往症:睡眠障害・パニック症（X-20年頃から心療内科に通院）

医療機関:耳鼻科・心療内科・漢方内科・鍼灸院

サプリメント：なし

患者情報

身長: 161cm **体重:** 61kg **BMI:** 23.53 中肉中背

徒手検査: SLRテスト 異常なし

精密検査: コロナ後遺症に対しての精密検査はなし

精神状態、性格: 抑うつ傾向 几帳面

内服薬:心療内科

① ベンラファキシン塩酸塩 (Venlafaxine) 75mg

分類：SNRI (抗うつ薬)

② エスゾピクロン (Eszopiclone) 2mg

分類：非ベンゾジアゼピン系睡眠薬 (Z薬)

③ レンボレキサント (Lemborexant) 10mg

分類：オレキシン受容体拮抗薬 (DORA)

④ ブレクスピプラゾール (Brexipiprazole) 0.5mg

分類：セロトニン・ドパミン調整薬（非定型抗精神病薬）

⑤ アルプラゾラム (Alprazolam) 0.4mg

分類：ベンゾジアゼピン系抗不安薬

内服薬:耳鼻科

⑥ トラネキサム酸 (Tranexamic acid) 250mg

分類：抗プラスミン薬（止血・抗炎症）

⑦ カルボシステイン (Carbocysteine) 500mg

分類：去痰薬（粘液調整薬）

⑧ トリアムシノロンアセトニド (Triamcinolone acetonide) 口腔用軟膏0.1%

分類：副腎皮質ステロイド（局所用）

内服薬:漢方内科

⑨ コタロー 半夏白朮天麻湯エキス顆粒 1日9g

(一般名：半夏白朮天麻湯 / はんげびやくじゅつてんまとう)

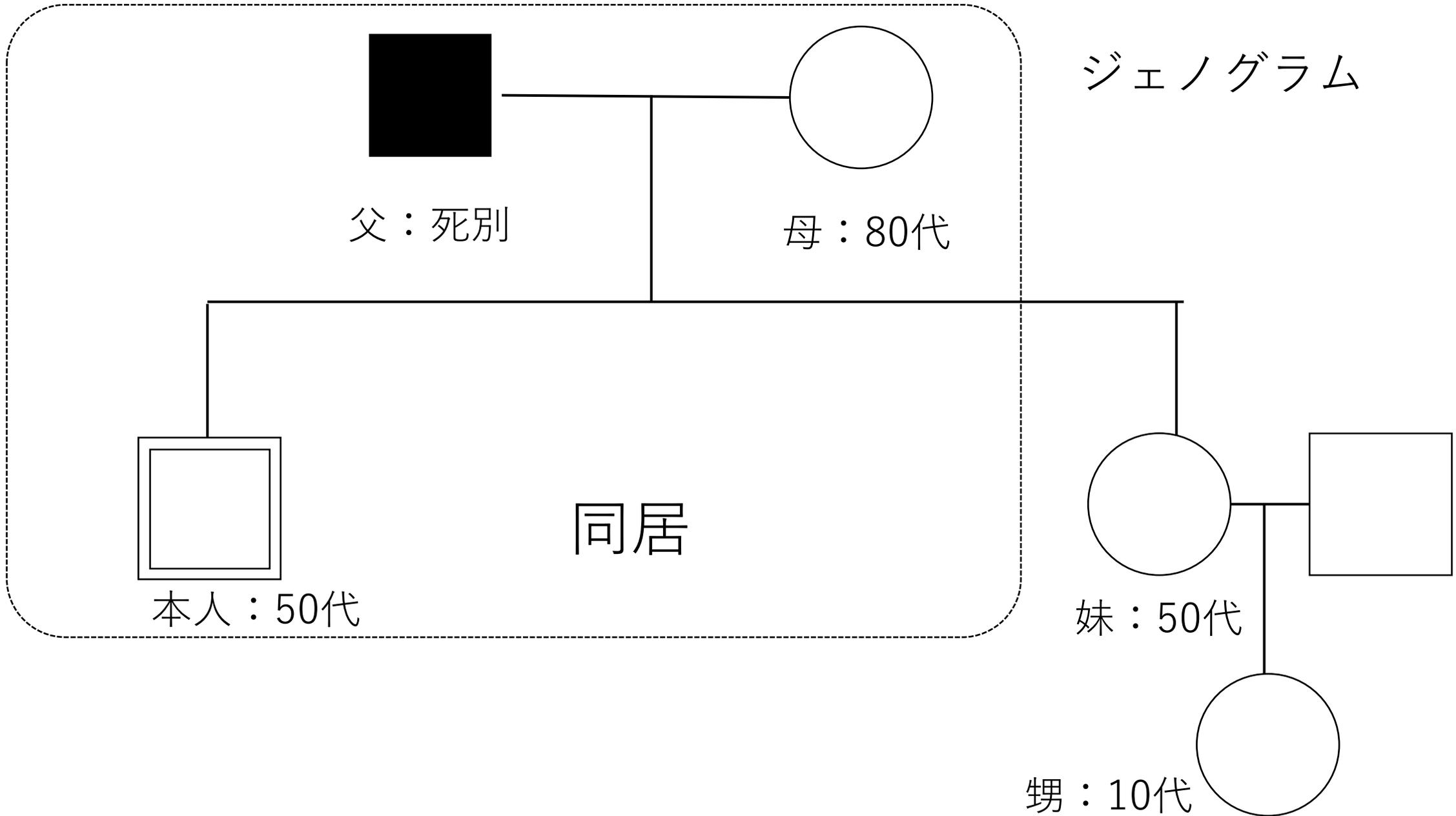
用法：1日3回 毎食前

⑩ ツムラ 柴胡桂枝湯エキス顆粒 1日7.5g

(一般名：柴胡桂枝湯 / さいこけいしとう)

用法：1日3回 毎食前

ジェノグラム



参考・および文献

- 1：足に人工金属を入れると糖尿病になるというエビデンスや参考文献は見当たらなかった。医師からもそう説明されたといっていたが元々血糖値がボーダーでストレスが重なるとそうなるという見解だったのではないか？ただ否定しない。
- 2：厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の罹患後症状（いわゆる後遺症）による身体障害認定について」
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_51343.html

3 : KenjirouShiraishi · Github (公開資料)

「ai-redflag-checklist」

<https://github.com/KenjiroShiraishi/ai-redflag-checklist>

- * AIとありますが別にAIなしでもできます。「腰痛症」、「しびれ」、「コロナ後遺症」などのレッドフラグチェックリストをオープンサイエンスの観点から資料として公開しています。もし間違いがあれば遠慮なくお知らせください。
- * AIに個人情報をつっ込んでしまうとトラブルになる可能性があるので今回はAIの話はしません。

4 : Kishore SP, Kocher R. The Hypertension Control Paradox — Why Is America Stuck? N Engl J Med. 2026 Jan 24;394(5):417-420. doi:10.1056/NEJMp2515023.

5 : Victor RG, et al. A Cluster-Randomized Trial of Blood-Pressure Reduction in Black Barbershops. N Engl J Med. 2018;378:1291-1301. doi:10.1056/NEJMoa1717250.

6 : 患者安全 (Patient safety) について

定義

リスクを一貫して持続的に低減し，回避可能な危害の発生を減らし，エラーの可能性を減らし，発生した場合の影響を減らすために，医療における文化，プロセス，手順，行動，技術，および環境を作り出す組織行動の枠組み

一般社団法人 日本医療安全学会より

<https://www.jpscs.org/?p=1652>